

Web を利用したコーディネート相談システム

稲邊 優香[†] 村田 嘉利[†] 高山 毅[†] 佐藤 永欣[†]

岩手県立大学ソフトウェア情報学部[†]

1. はじめに

現在、離れた場所にいる友達とファッションコーディネート相談する場合、アイテム（洋服等）の実物を見せられないため、イメージを口頭で伝えるしかない。アイテムの写真を撮影し、メールで送信する方法もあるが、この方法では複数のアイテムを用いたコーディネート相談することが難しい。

本研究では、先行研究[1]で提案されたコーディネート相談システムの改良を行った。改良するにあたり、先行研究であげられた感性語のキーワードがファッションのイメージを表す言葉として適切かどうかの調査、アイテムを分類する際に使用する色についての調査を実施した。また、それらの調査結果を反映したシステムを開発し、キーワードの適正と複数人でシステムを利用した場合の満足度について評価実験を行った。

2. 先行研究

先行研究では、アイテムを「かわいい」等の感性語のキーワードで分類し、「アウター」「インナー」「ボトムス」のカテゴリ別に登録した上で複数候補中から選択することで、コーディネートが視覚的にわかるシステムを提案している。システムは、友達と2人で電話で相談しながら利用する。アイテムを分類するキーワードについて、女子学生に対してアンケート調査を実施し、8個の感性語（かわいい、かっこいい、大人っぽい、子供っぽい、きれい、シンプル、カジュアル、スポーティ）を選出している。しかし、これらのキーワードについて、ファッション用語（エレガンス、マニッシュ等）や系統名（ギャル、モード等）を全てカバーしているかという評価が不十分である。さらに、分類は感性語のキーワードのみである。色や季節による分類もあった方が利用しやすいと考えられる。また、カテゴリに小物や靴等が存在しないため、それらを含めたコーディネートをするのが困難である。

3. コーディネーション相談システム

3.1. キーワードでの分類

アイテムを分類するキーワードとして、感性語の他にファッション用語や系統名がある。先行研究で選定された感性語のキーワードでそれらの用語を代用することが可能かどうか、女子学生30人を対象にアンケート調査を実施した。調査方法は、ファッション用語・系統名ごとにそれぞれのファッションコーディネートのサンプル画像を用意し、被験者にサンプル画像を見せ、そのイメージに合う感性語のキーワードを3つまで選択してもら

う。イメージに合う感性語がない場合は自由記述とした。調査結果を図1および図2に示す。

ファッション用語については、「アバンギャルド」に「大人っぽい」、 「エレガンス」に「大人っぽい」と「きれい」といったようにそれぞれの用語に付けられたキーワードに特徴が現れたため、感性語のキーワードで代用可能なことが分かった。

系統名については、ファッション用語のように明確な特徴は現れなかった。原因として「ガーリー」と「ギャル」、「ハイエンド」「モード」のように似ている系統が存在するからだと考える。しかし、自由記述による回答がなく、それぞれの系統名に付けられたキーワードは、8個の感性語の中から選択されていたため、系統名についても代用可能と判断した。

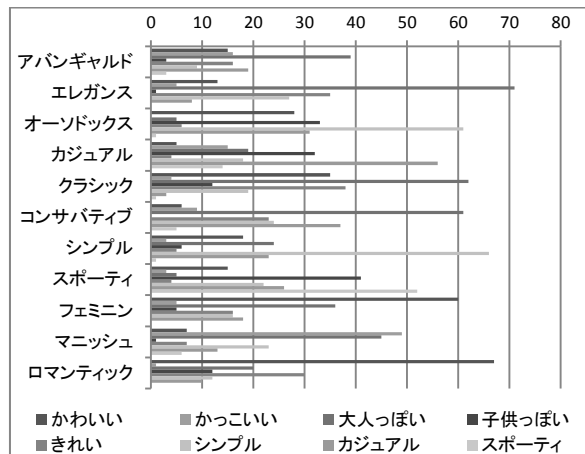


図1 ファッション用語別

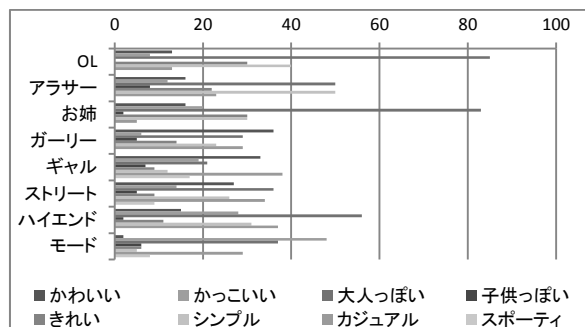


図2 系統名別

3.2. 色での分類

アイテムの分類に用いる色として、カラーコーディネートに利用される基本色彩語[2]「赤・黄・緑・青・紫・茶・白・黒・灰（＝グレー）」にファッションアイテムによく使われている「ピンク・オレンジ・ベージュ・ゴールド・シルバー」を加えた14色を選定した。選定した14色がアイテムを分類する色として適切か、女子学

A Coordinate Advisory System using WWW
 Y.Inabe†, Y.Murata†, T.Takayama†, N.Sato†,
[†]Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

生 30 人を対象にアンケート調査を実施した。その結果、14 色の他に「水色」があった方が良いという意見が多かった。以上のことから、本システムでは、最初に選定した 14 色に水色を加え、15 色を使用する。

3.3. システム構成

本システムの構成概要を図 3 に示す。アップローダを利用し、アイテムの画像にカテゴリやキーワード等を付与してデータベースへの登録を行う。コーディネーションアプリケーション利用し、登録したアイテムの中からカテゴリやキーワード等でアイテムを絞り込み、コーディネートを行う。図 4 中にあるように、最大 4 つのキーワードと最大 2 色の色、季節によりアイテムを絞り込むことが可能である。絞り込んだアイテムは、図 4 中左側の「アウター」「インナー」「ボトムス」「靴」「バッグ」「その他」の欄にそれぞれ配置され、コーディネートのイメージを確認することができる。友達とコーディネート相談の際は、配置されているアイテムの状態を同期させることでコーディネートを共有する。相談には、Skype[3]の通話機能の利用を推奨する。Skype を利用すれば電話と違い 1 対 1 だけではなく、1 対複数での相談ができる。

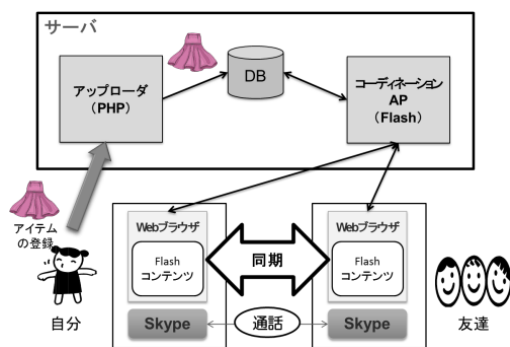


図3 システム構成図



図4 コーディネート画面

3.4. 先行研究のシステムとの差異

1 つ目の差異は、感性語のキーワードの他に色や季節での分類を追加したことである。キーワードのみで分類するより、コーディネートを考える際、アイテムの絞り込みが容易になる。

2 つ目の差異は、カテゴリに「バッグ」「靴」「その他」を追加したことである。これらのカテゴリを追加することで、全身のトータルコーディネートを可能にする。

3 つ目の差異は、先行研究では 2 人での相談に限られていたが、本システムでは複数人での相談に対応したことである。複数人で相談すると 2 人で相談するより多くの意見を取り入れることができる。

4. 評価

4.1. 評価方法

本システムで用いたキーワードと色の適正、相談する人数に対する完成したコーディネート満足度について女子学生 4 組 8 名を対象に評価実験を実施した。

キーワードと色の適正については、アイテム画像のシステムへの登録を行ってもらい、キーワード・色が適切(充分)であるかどうかアンケートをとった。コーディネートに対する満足度については、「同性の友達と外出する」というテーマを設け、それぞれの人数でコーディネートを考えた場合の満足度と楽しさについてアンケートをとった。

なお、コーディネートに用いたアイテム画像は、事前に収集し、登録したものを利用した。

4.2. 結果

キーワードの適正については 7 割以上、色の適正については全ての人から適切であるという回答が得られた(図 5 参照)。

完成したコーディネートに対する満足度については、2 人で考えた場合に満足できたと回答した人の割合が 1 番多かった(図 6 参照)。しかし、「誰にも邪魔されず 1 人でコーディネートした方が良い」「多くの人から意見を聞いてコーディネートした方が良い」等の意見もあった。これらの意見から、何人でコーディネートを考えた時に 1 番満足できるかは、個人差が顕著に現れることが分かる。楽しさについては、1 人でコーディネートを考えるよりも 2 人や 4 人といったように複数人で考えた方が楽しかったという意見が多かった。

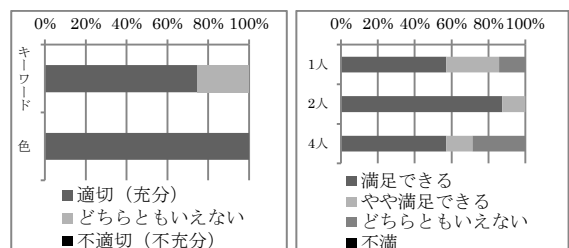


図5 キーワードの適正

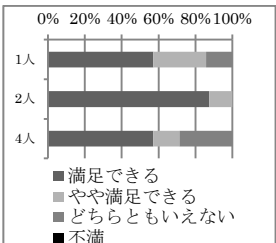


図6 人数別コーディネートに対する満足度

5. まとめ

本研究では、先行研究であげられたキーワードについて見直しを行い、感性語のキーワードでファッション用語や系統名を代用可能であることを明確にした。また、評価実験から、個人差はあるものの、本システムを使用し、複数人で満足できるコーディネートを楽しく考えられることができるといった結果が得られた。

参考文献

- [1] 三矢慶子ほか, “コーディネート相談システムの提案”, 第 73 回情処全大, 1-Z6, 2011
- [2] “基本色彩語”, <http://www.shikisaikentei.net/>
- [3] “Skype™”, <http://www.skype.com/intl/ja/home>